

19 世紀後半のアメリカ写真と『米欧回覧実記』

- その日米における言説としての意味 -

神戸大学 山地秀俊

- 1 開 題
- 2 鉄道の西漸問題
 - 2 - 1 鉄道敷設と鉄道地図
 - 2 - 2 西部開拓と写真記録
- 3 自然環境問題 特にヨセミテを中心に -
 - 3 - 1 環境保護運動 - ミューアの活動 -
 - 3 - 2 国立公園・国有林設立運動
- 4 アメリカ現代国家の眼差し 在来文化の消去と取込み -
 - 4 - 1 地図作成の意義
 - 4 - 2 写真撮影の意義
- 5 岩倉具視使節団とアメリカ写真
 - 5 - 1 岩倉使節団の記録としての『米欧回覧実記』
 - 5 - 2 『実記』への図像選択の意図
- 6 結 語 写真と文化的覇権

岩倉の米欧使節団 明治4年（1871）、欧米諸国の視察と条約改正の予備交渉のため、特命全權大使として使節使節団を率い、12カ国を回った。中央が岩倉。左端は木戸孝允、右から大久保利通、伊藤博文。明治5年、ワシントンにて撮影。

